



天の岩屋戸あめのいわやと

弟の須佐之男命が神さまにお供えするものにまで乱暴するのを見て、悲しまれた天照大御神は、天の岩屋におかくれになり、岩戸をしめてしまわれしました。すると、世の中はまっ暗になり、災いがはびこり大混乱になりました。

八百万の神さまたちは困りはて、岩戸の前に集まり相談しました。そして、思金神の知恵で、たくさんの方にわとりを鳴かせ、柵に鏡や玉飾りをつけて岩戸のまえに立て、天児屋根命がのりとを申し上げ、天宇受売命がおもしろおかしくおどると、神さまたちはどつとお笑いになりました。

天照大御神がふしぎに思われ、岩戸をすこしおあけになると、鏡の中にご自分とそっくりの神さまのお姿がお見えになりました。いよいよあやしいと思われ、戸をあけ身をのりだされたとき、岩かげにかくれていた力持ちの天手力男命が、大御神の手をとられて、お誘いだされました。

こうして、世の中はふたたび明るくなり、平和がもどってきました。